

「秋季講演大会会場周辺のご案内」

1998年日本鉄鋼協会・日本金属学会
秋季講演大会実行委員会 委員長 大森 靖也

会報編集委員会より、日本鉄鋼協会秋季講演大会に際し、開催地である松山ないし愛媛県のPR記事を書くようにとの依頼がありました。筆者自身もそうですが今回の学協会開催の関係者の多くが本来の愛媛県人でないこと、また、原稿依頼から締切までが僅か一週間しかありませんでしたので十分な調査の時間がなく、かなり偏見に満ちたものになりました。したがって、地元からお叱りを受けることになるかも知れませんが思いつくままに書いて見ることにしました。

筆者が当地に赴任して最初に気がつきましたのは、有名な道後温泉や松山城、のんびり走りますが意外と便利な市内電車は別として、何処に行っても漱石と子規の影響が強烈に目につくこと、物価が安いこと（因みに全国の県庁所在地で松山市は宮崎市について二番目に物価の安い都市とのことです）、柑橘類を中心とした果物と瀬戸内の小魚など魚介類が新鮮で豊富なこと、道路整備が遅れているためか交通マナーがかなり悪いことでした。まず、三千年の歴史を有するといわれ、万葉の時代から伊豫の湯として親しまれている日本最古の名湯、道後温泉は今回の大会会場である愛媛大学城北キャンパスから東へ徒歩約15分のところにあります。神代の時代に足を痛めた白鷺が伊豫の湯で傷を癒したという伝説に因み、白鷺を屋根に飾った道後温泉本館は坊ちゃん湯として地元のお年寄りや観光客には抜群の人気があります。折角、松山にお越しになるのであれば足を運ばれては如何かと存じます。筆者は大衆浴場である神の湯以外の経験はありませんが、ちょっと奮発してお茶と浴衣のサービスのあるワンランクアップの入湯と館内の見学をお勧めしたいと思います。

道後温泉本館から商店街を通り、坊ちゃんカラクリ時計、市内電車の道後駅、日本に三社しかない八幡造りの神殿で有名な伊佐爾波神社を経て道後公園に出るとその入口に子規記念博物館がありますので時間があれば覗いてみるのもいいでしょう。また、商店街の途中から西に向かって「にぎたつの道」という一寸整備された小道もあります。額田王が斉明天皇の新羅遠征に伴われて九州に向かう途中一時滞在した道後を懐かしんで詠んだとされます「熟田津に船のりせむと……」という例の歌の熟田津です。熟田津の正確な位置は三津浜港の近くであるとか、あるいは昔、海岸が内陸まで入り込んでいて道後温泉の辺りが熟田津と呼ばれていたとかいわれていますが専門外の筆者には定かではありません。しかし、この辺りで地元の酒造会社が製造する地ビールを楽しむのも風呂上がりには爽快であろうかと思えます。

古代の歴史と言う意味では愛媛大学構内の文京遺跡も忘れることはできません。特に工学部新館や地域共同研究センターの建設に伴う調査により全国でもまれな縄文後期、弥生時代後半期及び古墳時代後期の住居密集型集落が発掘されています。ただ、現在は埋め戻された上に新しい研究棟が建設されましたので遺構を見ることはできません。

賤ヶ岳七本槍の一人として知られ秀吉に仕えた加藤嘉明が慶長7年に築城に着手した松山城への登り口は、講演会場から南に5分ばかりのところにありロープウェイあるいはリフトで簡単に登ることができます。学会の休憩時間を利用して登ってみるのも面白いと思います。お元気な方は東雲神社を経て徒歩でも15分程度です。ただし、天守閣に登り内部をゆっくり見るにはもっと時間が必要になります。松山城を見学した後はロープウェイ街を更に5分ばかり南下しますと繁華街である大街道とそれに続く銀天街に至ることができます。その周辺は飲食店もたくさんありますので、食事をしたり瀬戸内の小魚など新鮮な魚介類で杯を傾けるのには大変都合のいい場所です。

また、漱石や子規はもとよりノーベル文学賞受賞の大江健三郎氏が松山東高等学校の出身など、松山は文学にも縁が深いところ。子規の旧宅を模して正宗寺境内に建てられた子規堂には子規の遺品などが数多く展示されていますし、二番町三丁目には石碑だけですが、子規が漱石と共同生活をしたといわれる愚陀庵跡などがあります。このような土地柄ですので市民の間では俳句が広く浸透しておりますし、お好み焼き屋や居酒屋までも「坊ちゃん」とか「漱石」とか名乗っていたり、うどん屋によってはその商品に「子規…」といった名前をつけたりしています。また、時間があれば第五十一番札所であり国宝の仁王門や三重塔で有名な石手寺や伊予かすり会館などを訪問するのも面白いかも知れません。石手寺は道後温泉からバスもありますが徒歩でも15分位のところです。

松山から少し足を延ばすと焼きもので有名な砥部、和紙と木蠟で栄えた古い町並みが残る内子町や伊予の小京都と呼ばれる大洲、壮大で完成間近な本四架橋が見える今治、日本最古の近代的銅精錬で有名な新居浜などは日帰りコースですし、更に一泊できるのであれば最後の清流と言われる四万十川や高知などもこの機会に是非訪れて頂ければと思います。



松山城

砥部は白磁の生産では全国で有数の地位を占めており、松山市駅からバスを利用するのが便利です。砥部焼きは、もともと、実用品から出発していますので少々重量感がありますが美しい焼き物で比較的安価です。砥部では伝統産業会館や砥部焼きの窯元を訪問するのがよいでしょう。なお、バスを途中下車して砥部動物園を見学するのも楽しいと思います。この動物園は種々の動物が自然な状態で観察できるよう工夫されており、あたかもサンディエゴ動物園の小型版のようです。

内子町のかつての繁栄の面影を残す町並みは、重要伝統建造物群保存地域として国の指定を受けているほか、ここには大正時代の木造の歌舞伎劇場内子座があり、回り舞台、花道や桝席は一見の価値があります。

大洲は城下町として栄えた町で、肱川の清流を背景に臥龍山荘、大洲城跡などがありますが、NHKの朝の連続テレビドラマであった「おはなはん」のロケ地としてもPRに努めており、おはなはん通りと称するものもあります。

なお、方角は異なりますが、西条市に四国で初めてアサヒビールの新鋭工場が建設され稼動を開始しています。この工場は講演大会の翌日の工場見学会のコースにも組み入れておりますので、是非とも工場見学会へのご参加をお願いいたします。

前述いたしましたが、当地の車の運転は伊予の早曲がりという表現もありますようにかなり乱暴です。勿論、横断歩道で車が停まってくれることは極めて希です。一寸、メインロードから外れると歩道の整備ができていません。観光に際してはくれぐれも交通事故にご注意下さい。

(1998年7月23日受付)